

やさいしんじょうとば

広島県 浄久寺 東堂 多飯宗道

私が永平寺で修行していたときの事です。そこで丹羽禅師様という方が、毎日私たち修行僧を褒めてくださいました。禅師様の事は修行僧が作ります。食事が終わってお膳を下げに行くと、丹羽禅師様はいつも決まって「おいしかったよ。全部食べたよ」と言われます。三百六十五日、三食、毎回決まってハンコで押したように褒めてくださるのです。私はその言葉を聞くのが毎日楽しみでした。

大本山永平寺を開かれた道元禅師様は「優しい言葉は天と地をひっくり返すほどの力がある」とおっしゃっています。私は、今まで優しい言葉にどれだけ救われてきたことかわかりません。

私も丹羽禅師様の真似をして、毎日自分の子どもを褒めることにしました。子どもが学校から帰ってきたら「おかえり。おつかれさん。よくがんばったな。いい子だったな」と言うことに決めました。

小学校の頃から言い始めて、上の子が高校を卒業するまで、毎日、ハンコで押したように同じことを言い続けました。下の子はまだ高校生なので、

今もそれは続いています。どんなにケンカをしたときも、どんなに腹が立っていても、まず「おかえり。おつかれさん。よくがんばったな。いい子だったな」と言います。

優しい言葉を口にするとき、自分の心も優しくなっていることに気がつきます。思春期の息子たちは、私の言葉に「ただいま」と返してこない日もありますが、それでも同じことを毎日言い続けています。これからも、一生優しい言葉を使い続けようと思います。

(平成二十四年三月放送)